

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	簿記応用（商業選択）	学年	2	単位	3
教科書(出版社)							
副教材等(出版社)		反復式 学習と検定 簿記問題集 全商2級（実教出版）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業の諸活動を理解し、その描写である簿記に関する知識を習得する。	発問などに対して、自らの知識を整理し、考えを構築し、表現する能力を養う。	基礎的な知識を理解し、そこから自らの課題を発見し解決する能力を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1) 取引の記帳Ⅰ 2) 取引の記帳Ⅱ	・現金過不足 ・当座借り越し ・手形の記帳 ・有価証券の処理	36
2	1) 会計帳簿と帳簿組織 2) 株式会社の記帳 3) 本支店会計	・現金出納帳・当座預金出納帳 ・仕入帳・売上帳 ・売掛金元帳・買掛金元帳 ・株式会社の設立 ・剰余金の配当と処分 ・本支店間の取引 ・本支店の財務諸表の合併	45
3	1) その他の記帳 2) 総合記帳演習	・固定資産の売却 ・クレジット売掛金 ・電子記録債権債務 ・総合記帳演習問題	24

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 簿記実務に関する知識を活用し、適切に処理を行うことができる技術を習得しているか。	単元テスト 定期考査 検定試験	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を概ね作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができない。
【思考力、判断力、表現力等】 発問などに対して自らの考えを述べられるか。 実社会での処理を意識できるか	授業での発問に対する回答	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が概ね身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についていない。
【主体的に学習に取り組む態度】 教科書等の準備や授業を受ける態度など。	授業への取り組み姿勢 課題等	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を概ね身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度が身についていない。

※具体的な評価方法等

- ・ 検定試験の結果は加点項目とする（減点要素とはしない）

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	簿記応用（商業選択）	学年	2	単位	3
教科書（出版社）							
副教材等（出版社）		反復式 学習と検定 簿記問題集 全商2級（実教出版）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業の諸活動、企業会計を理解し、取引の記帳や財務諸表作成をする知識や技能を習得する。	発問などに対して、自らの知識を整理し、考えを構築し、表現する能力を養う。また、財務諸表を分析し、発表する力を習得する。	財務諸表を読み取り、そこから企業の課題を発見し解決する能力を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1) 財務会計の基礎	・ 企業と企業会計 ・ 企業会計制度と会計基準	36
	2) 資産	・ 資産の分類と評価 ・ 流動資産（その1 当座資産） ・ 流動資産（その2 棚卸資産） ・ 固定資産（その1 有形固定資産） ・ 固定資産（その2 リース取引） ・ 固定資産（その3 減価償却） ・ 固定資産（その4 無形固定資産） ・ 固定資産（その5 投資その他の資産）	
2	1) 負債と純資産	・ 負債 ・ 純資産	45
	2) 損益計算	・ 損益計算の意味と基準 ・ 営業損益の計算 ・ 経常損益の計算（その1 営業外損益） ・ 経常損益の計算（その2 外貨建取引） ・ 当期純利益の計算（その1 特別損益） ・ 当期純利益の計算（その2 法人税等）	
3	1) 財務諸表の作成	・ 貸借対照表の作成 ・ 損益計算書の作成 ・ その他の財務諸表の作成	24
	2) 財務諸表の活用	・ 財務諸表分析 ・ 連結財務諸表の活用	

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 簿記実務に関する知識を活用し、適切に処理を行うことができる技術を習得しているか。	単元テスト 定期考査 検定試験	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を概ね作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができない。
【思考力、判断力、表現力等】 発問などに対して自らの考えを述べられるか。 実社会での処理を意識できるか	授業での発問に対する回答	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が概ね身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についていない。
【主体的に学習に取り組む態度】 教科書等の準備や授業を受ける態度など。	授業への取り組み姿勢 課題等	財務諸表から自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	財務諸表から自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を概ね身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度が身についていない。

※具体的な評価方法等

- ・ 検定試験の結果は加点項目とする（減点要素とはしない）

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ソフトウェア活用（商業選択）	学年	2	単位	3
教科書（出版社）		ソフトウェア活用（実教出版）					
副教材等（出版社）		全商情報処理検定模擬試験問題集1級・2級（実教出版） 学習と検定 全商情報処理検定テキスト1級・2級（実教出版） 情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集2・準2級編（日本情報処理検定協会） 情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集1・準1級編（日本情報処理検定協会）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容（1.2.4.5.6組）	授業内容（3組）	時数
1	表計算ソフトウェアの活用	・情報の集計 ・シミュレーション	・情報分析 ・シミュレーション ・オペレーションズ・リサーチ	36
	情報システム開発（発展）		・システム開発と運用 ・性能評価 ・障害管理 ・アルゴリズムの基礎	
	情報通信ネットワークの活用	・ネットワークの構成 ・ネットワークの活用	・ネットワークの構成 ・ネットワークの活用	
	情報モラルとセキュリティ	・権利の保護と管理 ・セキュリティ管理	・暗号化、電子署名 ・ログファイル ・セキュリティ	
	全商情報処理検定対策	・ビジネス情報部門2級演習		
2	経営マネジメント（発展）		・問題解決の手法 ・経営計画と管理	45
	データベースソフトウェアの活用	・ビジネスとデータベース ・データベースの構造 ・SQLの操作	・ビジネスとデータベース ・データベースの設計 ・SQLの操作 ・DBソフトによる操作	
	全商情報処理検定対策	・ビジネス情報部門2級演習	・ビジネス情報部門1級演習	
3	業務処理用ソフトウェアの活用	・グループウェアの活用	・グループウェアの活用	24
	日検情報処理検定	・情報処理検定 2級・準2級演習	・情報処理検定 1級・準1級演習	

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 ソフトウェアを活用した情報技術についての知識を理解できる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの情報技術に関して具体的な方策を考え、適切に処理することができる。	課題の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの情報技術に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】 処理条件にしたがって実行結果を導くために、どのように処理をすればよいのかを考えることができる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの操作に関して具体的な方策を考え、適切に処理手順を提示し、処理することができる。	課題解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの操作に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理手順を提示し、処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 学習した内容を理解し、コンピュータを適切に活用しようとしている。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	学習内容を解決するために、表計算ソフトウェアの活用に関して具体的な方策を考え、適切に活用することができる。	学習内容の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの活用に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に活用するには課題がある。	学習内容の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。

※具体的な評価方法等

- ・ 検定試験の結果は加点項目とする。(減点要素とはしない)

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	原価計算（ビジネス選択AB）	学年	2	単位	4
教科書（出版社）		原価計算（実教出版）					
副教材等（出版社）		全商簿記模擬問題集1級原価計算（実教出版）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
原価計算の基礎（原価の意義、製品別計算等）を理解し、正確な財務諸表の作成が行える。	原価の意義を正確に理解し、企業の製造活動を会計処理として表現することができる。	授業で得た原価計算の理解を、実際の企業活動に投影する応用力を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	(1) 原価計算の基礎 ・原価と原価計算 ・原価計算のあらまし (2) 原価の費目別計算 ・材料費、労務費、経費の計算 ・個別原価計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色と仕組みを理解させる。 ・原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。	48
2	(3) 原価の部門別計算と製品別計算 ・部門別個別原価計算 ・総合原価計算 ・工程別総合原価計算 (4) 製品の完成・販売と決算 ・製品の完成と販売 (5) 標準原価計算の基礎 ・原価管理と標準原価計算 ・原価差異の計算と分析	・原価の部門別計算と製品別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。 ・製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成について理解させる。	60
3	(6) 直接原価計算の基礎 ・利益計画と直接原価計算 ・CVP分析 ・損益分岐図表	・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画を学び、直接原価計算の有用性について理解させる。	32

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 財務諸表等が適切に作成されるか	・学習後の演習(宿題等)を消化しているか。 ・会計数値の利用について、積極的に取り組んでいるか。 (20%)	・学習後の演習について、積極的に取り組んでいる(100%消化)。 ・会計数値や企業動向について、興味をもって調査・研究している。	・学習後の演習について、最低限部分に取り組んでいる(70%消化)。 ・会計数値や企業動向について、興味をもっている。	・学習後の演習について、取り組みがみられない(30%未満)。 ・会計数値や企業動向について、興味をもとしない。
【思考力、判断力、表現力等】 暗記ではなく、理解をともなった会計処理を円滑に進められるか	・基本的な取引について、概念を理解しているか(下書きをきちんと作成できるか) (30%)	基本的な取引について、その概念を理解しており、かつ、適切な勘定科目・金額で表現することができる。	基本的な取引について、その概念を理解している。	正解したとしても暗記によるものであり、取引の概念を理解していない。
【主体的に学習に取り組む態度】 教科書等の準備や問題演習に取り組む態度など	・自ら進んで、課題を発見し解決する姿勢が認められるか。 (20%)	提出課題等について完全に理解し、その上で、より高い到達目標を自ら課している。	提出課題等について理解しているが、より高い到達目標は求めている。	提出課題等について、不十分な内容で提出している。

※具体的な評価方法等

- ・ 科目の知識的到達目標を、全商簿記実務検定1級原価計算の合格におく。
- ・ すでに上記目標を達成している生徒については、更に高い目標を各自設定させ、その到達に向けたPDCAサイクルの達成具合をもって評価する。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション (ビジネス選択A, B)	学年	2	単位	2
教科書(出版社)	ビジネス・コミュニケーション(実教出版)						
副教材等(出版社)	『全商ビジネス・コミュニケーション検定テキスト』(実教出版))						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理解、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度を及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1 編 1 章 企業の組織と人間関係 1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進行方法 3. 仕事に対する心構え 4. 人的ネットワークの構築 2 編 2 章 応対に関するビジネスマナー 1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のこなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客対応 6. 電話の応対 7. 席次のマナー 3 章 交際に関するビジネスマナー 1. 交際のマナー 2. 食事のマナー 4 章 接客に関するビジネスマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性	・組織の構造と意思決定の関係を理解する。(問題演習) ・業務の適切な進行方法やそれぞれを実践する重要性を理解する。(行動観察) ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を築く必要性を理解する。(行動観察) ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。(行動観察) ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。(行動観察) ・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。(行動観察) ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。(行動観察) ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。(行動観察) ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。(ロールプレイング) ・電話応対における適切なコミュニケーションを理解し、実践する。(ロールプレイング) ・席次のマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察) ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察) ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察) ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。(ロールプレイング) ・ホスピタリティについて理解し、外国人に対する接客の注意点について考察する(行動観察)	24

2	3編 5章 コミュニケーションの役割と思考方法 1. コミュニケーションの役割と種類 2. ビジネスコミュニケーションの基本 3. ビジネスにおける思考方法 4. ディベート 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 交渉 4. 苦情対応 5. 商品説明とワークショップ 6. ソーシャルメディアを活用した情報発信 7章 コミュニケーションとビジネススキル 1. 会議 2. 文書におけるコミュニケーション 4編 8章 企業活動のグローバル化 1. 国際化の進展とビジネス 2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション	・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。(行動観察) ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。(行動観察) ・論理的な考え方とビジネスコミュニケーションにおけるフレームワークを理解する。(行動観察) ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。(行動観察) ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。(行動観察) ・プレゼンテーションを使い、わかりやすい発表を行うことができる。(行動観察) ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察) ・店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について理解し、実践する。(行動観察・ロールプレイング) ・ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解し、実例を挙げることができる。(ワークシート・行動観察) ・市場の国際化、ビジネスシーンの国際化について理解する。(行動観察) ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む(ロールプレイング)	30
3	9章 ビジネスの会話 1. 国内での接客 2. 入国 3. 商談と会議 4. 帰国 10章 ビジネス文書と電子メール 1. ビジネスレター Business Letters 2. 電子メールの利用 Using E-mail 3. 貿易取引 Trade Transaction 4. ビジネス文書 Business correspondence 11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション 1. プレゼンテーションの構成 Structure of Presentation 2. プレゼンテーションの作成 Making a Presentation	・国内で外国人を接客する際に必要となる英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング) ・外国に入国する際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング) ・商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング) ・ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング) ・ビジネスレターの構成要素と封筒の正しい書き方を理解し、ビジネスレターや封筒を適切に作成することができる。(行動観察)(問題演習) ・電子メールの構成とマナーについて理解し、ビジネスメール作成のための基本的な技術を身につける。(行動観察)(問題演習) ・輸出入取引の流れについて理解し、電子メールの利用で身につけた技術を用いて、適切に貿易取引に関するビジネスメールを作成し、相手方とやり取りすることができる。(行動観察)(問題演習) ・売買契約書、信用状、商業送り状、船荷証券、為替手形の模範的な書式を理解し、取引先(仮想)とビジネス文書でやり取りすることができる。(行動観察)(問題演習) ・ビジネスにおけるプレゼンテーションの基本構成について理解する。また、プロジェクタやレーザーポインタ、オーディオ機器など、プレゼンテーションに必要なツールを利用する技術を身につける。(行動観察) ・英語によるプレゼンテーション(スライド)の流れを理解し、さまざまなシーンで利用できる基本的なフレーズを身につける。(行動観察)(ロールプレイング)	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、業務の合理化についての関心を持ち、主体的に学習に取り組むとともに、社会人として望ましい心構えや態度を身につけている。	授業への取り組み姿勢 課題等	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を概ね身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度が身につけていない。
【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスの様々な場面における適切なコミュニケーションの方法やオフィスにおける合理的な知識をもとに自ら考え工夫するとともに、その成果を的確に表現できる。	授業への取り組み姿勢 課題等	ビジネスマナーに関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	ビジネスマナーに関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が概ね身についている。	ビジネスマナーに関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけていない。
【主体的に学習に取り組む態度】 社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を実践できる。	授業への取り組み姿勢 課題等	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を実践できる。	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を概ね実践できる。	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を実践できていない。

※具体的な評価方法等

以下の基準により総合的に判断する。

- ① 検定試験の結果は加点項目とする(減点要素とはしない)
- ② 課題について、提出期限以内に指示された通りの内容で提出できているか(加点材料とする)。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	グローバル経済（ビジネス選択A）	学年	2	単位	2
教科書（出版社）		グローバル経済（実教出版）					
副教材等（出版社）							

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業における経済のグローバル化への対応など実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び経済社会の動向を踏まえて自ら情報を収集し、分析する姿勢を見せけている。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	第1章 グローバル化が進展する社会	1 国境を越えて広がる世界 2 グローバル化する社会 3 グローバル化と地域経済統合の働き 4 グローバル化と経済発展	9
	第2章 経営のグローバル化	1 多国籍企業とグローバル経営 2 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ 3 グローバル経営の現状 4 グローバル経営の課題 5 グローバル化に伴う企業の社会的責任 中間考査	
	第3章 経済のグローバル化	1 人材のグローバル化 2 財とサービスのグローバル化 3 金融のグローバル化 4 情報のグローバル化 期末考査	1 14 1
2	第4章 市場と経済	1 需要と供給による市場の理論 1 需要と供給 2 価格決定の仕組み 3 需要や供給の変化と均衡 2 経済成長 1 GDP 2 実質GDPと名目GDP 中間考査 3 実質GDPと経済成長率 4 物価指数と実質GDP 5 経済成長の要因 3 景気循環とインフレーション 1 景気指標 2 景気循環の要因 3 景気循環と物価変動の弊害 期末考査	14 1 14 1

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】	定期考査 （テスト）	市場と経済・グローバル化について動向と理論とが関連付けられている。	市場と経済・グローバル化について動向と理論とが関連付けが部分的に出来ている。	市場と経済・グローバル化について動向と理論とが関連付けて理解するためには努力が必要である。
【思考力、判断力、表現力等】	プレゼンテーション （個人）	市場と経済・グローバル化に伴うビジネスに関する課題を発見し改善案を出せることができる。	市場と経済・グローバル化に伴うビジネスに関する課題を発見し改善案を部分的に出すことができる。	市場と経済・グローバル化に伴うビジネスに関する課題を発見し改善案を出すためには努力が必要である。
【主体的に学習に取り組む態度】	ノート・プレゼンテーション（グループ）・出席状況	市場と経済・グローバル化について自ら学び主体的・協働的に取り組むことができる。	市場と経済・グローバル化について自ら学び主体的・協働的に取り組むことが部分的にできる。	市場と経済・グローバル化について自ら学び主体的・協働的に取り組むためには努力が必要である。

※具体的な評価方法等

- ・定期考査（テスト）
- ・ノート提出
- ・プレゼンテーション

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	商品開発と流通 (ビジネス選択A)	学年	2	単位	2
教科書(出版社)		商品開発と流通(実教出版)					
副教材等(出版社)							

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
商品開発に必要な知識や技術を身に付けるために、調べ学習をすることができる。	企業活動の実態を調査し、消費者の動向を把握し、新たなアイデアを生み出すことができる	調査結果から状況を分析し、根拠に基づいたビジネスプランを提案することができる。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1章 商品開発と流通の概要 ・ 私たちの生活と商品 ・ 商品開発の意義と手順 ・ 商品と流通との関り 2章 商品の規格 ・ 環境分析と意思決定の準備 ・ 市場調査 ・ 商品コンセプトの策定 ・ 商品企画の提案 ・ デザイン思考	・ 市場の形成とブランド、商品について ・ 商品開発の意義と手順について ・ マーケティングと流通チャネルについて ・ 環境分析(マクロ環境、ミクロ環境等)について ・ 市場調査、商品コンセプトについて ・ プレゼンテーションの実施 ・ 各種外部コンテストに応募	24
2	3章 事業計画の立案 ・ 事業計画の概要 ・ 価格計画 ・ 流通計画 ・ プロモーション計画 ・ 事業計画書の作成 4章 商品の開発 ・ 商品仕様と詳細設計 ・ プロトタイプ ・ 商品のデザイン ・ ブランド ・ 知的財産権の登録	・ 事業計画書の策定について ・ 価格の考え方について ・ 流通チャネル、プロモーション計画等、消費者に届くまでの流れについて ・ 商品のデザインの作成について ・ ブランドの構築と知的財産について ・ 各種外部コンテストに応募	30
3	5章 商品の販売 ・ 販売員活動 ・ セールス・プロモーション 6章 商品開発と流通に関わる新たな展開 ・ 商品開発の新たな展開 ・ 流通の新たな展開 ・ 感覚を活かした商品開発・流通	・ 販売活動、セールス・プロモーションについて ・ クラウドソーシングやソーシャルメディア等のテクノロジーの活用について ・ 視覚、聴覚、嗅覚、触覚を活かした商品開発について ・ 各種外部コンテストに応募	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 商品開発に必要な知識や技術を身に付けるために、調べ学習をすることができる。	授業課題	知識や技術を身に付けるために、自ら考え、振り返りながら学ぶことができる。	知識や技術を身に付けるために、振り返りながら学ぼうとしている。	知識や技術を身に付けるために、振り返りながら学ぼうとしていない。
【思考力、判断力、表現力等】 企業活動の実態を調査し、消費者の動向を把握し、新たなアイデアを生み出すことができる	授業課題 グループワーク	必要なマーケティングツールを活用し、多角的に思考・判断を行い、アイデアを生み出すことができる。	必要なマーケティングツールを活用し、多角的に思考・判断を行い、アイデアを生み出そうとしている。	多角的に思考・判断を行い、アイデアを生み出そうとしていない。
【主体的に学習に取り組む態度】 調査結果から状況を分析し、根拠に基づいたビジネスプランを提案することができる。	授業課題 プレゼンテーション	調査結果から状況を分析し、根拠に基づいたビジネスプランを提案し、自らの考えを伝えることができる。	調査結果から状況を分析し、根拠に基づいたビジネスプランを提案することができる。	調査結果から状況を分析し、根拠に基づいたビジネスプランを提案することができない。

※具体的な評価方法等

- (1) 課題について、提出期日以内に指示された通りの内容で提出・発表できているか。
- (2) 発表等において、自分の作成した意図等を他人に的確に伝えることができたか。
- (3) グループワーク時、積極的に協力する姿勢を見せることができたか。積極的に取り組んでいるか。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ソフトウェア活用 (ビジネス選択A)	学年	2	単位	2
教科書(出版社)	ソフトウェア活用(実教出版)						
副教材等(出版社)	全商情報処理検定模擬試験問題集1級・2級(実教出版) 情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集2・準2級編(日本情報処理検定協会) 情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集1・準1級編(日本情報処理検定協会)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	表計算ソフトウェアの活用 情報通信ネットワークの活用 情報モラルとセキュリティ 全商情報処理検定対策	- 情報の集計 - シミュレーション - ネットワークの構成 - ネットワークの活用 - 権利の保護と管理 - セキュリティ管理 - ビジネス情報部門2級演習	36
2	データベースソフトウェアの活用 全商情報処理検定対策	- ビジネスとデータベース - データベースの構造 - SQLの操作 - ビジネス情報部門2級演習	45
3	業務処理用ソフトウェアの活用 日検情報処理検定	- グループウェアの活用 - 情報処理検定 2級・準2級演習	24

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 ソフトウェアを活用した情報技術についての知識を理解できる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの情報技術に関して具体的な方策を考え、適切に処理することができる。	課題の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの情報技術に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】 処理条件にしたがって実行結果を導くために、どのように処理をすればよいのかを考えることができる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの操作に関して具体的な方策を考え、適切に処理手順を提示し、処理することができる。	課題解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの操作に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理手順を提示し、処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 学習した内容を理解し、コンピュータを適切に活用しようとしている。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	学習内容を解決するために、表計算ソフトウェアの活用に関して具体的な方策を考え、適切に活用することができる。	学習内容の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの活用に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に活用するには課題がある。	学習内容の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。

※具体的な評価方法等

- ・検定試験の結果は加点項目とする。(減点要素とはしない)

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	Web開発（ビジネス選択A）	学年	2	単位	2
教科書（出版社）	なし						
副教材等（出版社）	書きながら覚えるHTML&CSS入門ワークブック（技術評論社）						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や企画・立案、制作の手法を身につける。	・ウェブページを作成するために、目的に応じた機器やソフトウェアを活用し、閲覧者の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信の方法を選択する能力を身につける。 ・知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。	・意欲を持って、ウェブページ作成に必要な知識や技能を積極的に学ぶ姿勢を身につける。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容	時数
1	(1) HTMLとCSSの基礎 (2) headの構成とmetaデータ (3) headerの内容と作成 (4) main contentsの作成	・html・CSSの基礎的な知識と構成 ・headの内容と作成 ・headerの作成 navの作成 cssを活用したmainvisualの作成 ・main contentsの作成 class名の活用とflexboxを使用した様々なレイアウト 外部contentsの埋め込み	24
2	(5) footerの内容と作成 (6) コンテンツの作成 (8) Webページの作成手順 (9) オリジナルサイトの作成	・外部contentsへのリンクの作成と著作権情報 ・ファイルの形式 ・図形と画像 ・音声 ・情報の統合 ・ウェブページ制作の手順 ・ウェブデザイン設計 ・ウェブページの作成 ・フレームワークとデザインカンパの作成 ・オリジナルサイトの作成	30
3	(9) オリジナルサイトの作成 (10) サイトの公開	・オリジナルサイトの作成 ・ネットワーク機器の種類と機能 ・公開に用いられるネットワーク技術 ・公開に用いられるネットワーク機器と通信回線 ・公開の仕組み	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 ・ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や企画・立案、制作の手法を身につけている。 ・図形や静止画などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用してウェブページを作成できる。	・提出されたデザインコンプおよびWebページ	ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や企画・立案、制作の手法を十分身につけている。 図形や静止画などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用が十分できている。 ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用してウェブページの作成が十分できている。	ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や企画・立案、制作の手法を概ね身につけている。 図形や静止画などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用が概ねできている。 ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用してウェブページの作成が概ねできている。	ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や企画・立案、制作の手法を身につけることができていない。 図形や静止画などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用ができていない。 ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用してウェブページの作成ができていない。
【思考力、判断力、表現力等】 ・ウェブページを作成するために、目的に応じた機器やソフトウェアを活用し、閲覧者の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。 ・知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。	・提出されたサイトデザインの研究資料。 ・提出されたデザインコンプおよびWebページ	ウェブページ閲覧者の傾向や状態を収集・分析が十分できている。それらを踏まえ、周囲の意見や考えを取り入れながら、自ら問題を解決することが十分できている。 知的財産権を踏まえながらわかりやすい情報発信が十分できている。	ウェブページ閲覧者の傾向や状態を収集・分析が概ねできている。それらを踏まえ、周囲の意見や考えを取り入れながら、自ら問題を解決することが概ねできている。 知的財産権を踏まえながらわかりやすい情報発信が概ねできている。	ウェブページ閲覧者の傾向や状態を収集・分析が十分できている。それらを踏まえ、周囲の意見や考えを取り入れながら、自ら問題を解決する能力が不足している。 知的財産権を踏まえながらわかりやすい情報発信ができていない。
【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲を持って、ウェブページ作成に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。	・授業及び課題に取り組む態度。 ・課題の提出状況	ウェブページの制作活動に大変興味・関心があり、自ら課題を見つけ、積極的に取り組もうとする意欲、課題解決に向けて取り組む姿勢がある。	ウェブページの制作活動に興味・関心があり、与えられた課題に取り組もうとする意欲と、課題解決に向けて取り組む姿勢がある。	ウェブページの制作活動に興味・関心がなく、与えられた課題に取り組もうとする意欲がない。

※具体的な評価方法等

- ・出席・提出物・授業への取組等を総合的に判断する。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	マーケティング（ビジネス選択B）	学年	2	単位	2
教科書（出版社）		マーケティング（実教出版）					
副教材等（出版社）							

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	○現代社会とマーケティング ○マーケティングのプロセス ○市場調査	・現代市場の特徴とマーケティングについて ・マーケティングのプロセス・SWOT分析 ・ポジショニングやマーケティング・ミックス、マネジメントについて理解する。 ・市場調査の手順と方法 ・情報の収集と分析方法	28
2	○消費者の購買行動 ○商品計画 ○価格対策	・消費者の行動 ・消費者の意思決定の過程 ・販売計画と販売予測 ・仕入計画と在庫管理 ・価格決定の要因 ・価格戦略	30

3	○チャンネル	・チャンネルの強化と効率化 ・進化したチャンネル政策	12
	○プロモーション	・販売経路の設定 ・販売経路の役割・進め方について理解する	

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】	課題に対する提出物、授業への取り組み姿勢	マーケティングに関する基本的な知識と技術を身につけ、経済社会におけるマーケティングの意義や役割を理解している。	マーケティングに関する基本的な知識と技術を身につけ、経済社会におけるマーケティングの意義や役割を概ね理解している。	マーケティングに関する基本的な知識と技術を身につけることができず、経済社会におけるマーケティングの意義や役割を理解していない。
【思考力、判断力、表現力等】	グループワーク及びプレゼンテーション	マーケティングの諸問題を経済生活との関連から適切に把握し、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、自分の言葉で表現することができる。	マーケティングの諸問題を経済生活との関連から把握し、基礎的・基本的な知識と技術を活用して概ね判断し、自分の言葉で概ね表現することができる。	マーケティングの諸問題を経済生活との関連から判断できていない、また、自分の言葉で表現することができない。
【主体的に学習に取り組む態度】	課題に対する提出物	マーケティングに関わる課題とその解決対策の探求を目指し、自ら進んで調べたり質問したりしながら意欲的に学習に取り組んでいる。	マーケティングに関わる課題とその解決対策の探求を目指し、調べたり質問したりしながら学習に取り組んでいる。	マーケティングに関わる課題とその解決対策の探求を目指し、学習に取り組んでいない。

※具体的な評価方法等

- ① 授業状況・出欠・提出物・アクティブラーニング、実習課題の内容で評価する
- ② マーケティングシート等の提出
- ③ グループ学習の取組み・課題提出
- ④ プレゼンテーション技法が身に付いているか
- ⑤ マーケティング技法が習得できているか

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	プログラミング (ビジネス選択B)	学年	2	単位	2
教科書(出版社)	最新プログラミング オブジェクト指向型言語 (実教出版)						
副教材等(出版社)	Java プログラミング (インフォテック・サーブ)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1. 情報システムとプログラミング (1) 情報システムの重要性 (2) プログラム言語の種類と特徴 (3) プログラミングの手順 2. アルゴリズム (1) アルゴリズムの表現法 (2) 基本的なアルゴリズム (3) 応用的なアルゴリズム	情報システムの重要性について理解し、システムに関連づけて分析し、考察するなどの学習活動を取り入れる。 プログラム言語の種類、代表的なプログラム言語の記述方法などの特徴を理解する。 一連のプログラミングの手順について理解する。 アルゴリズムについて理解、効率のよいアルゴリズムを思考し適切に表現する技法を身に付ける。 基本的なアルゴリズムについて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。 添字を適切に用いて、配列を利用する意義や利点を理解するとともに活用する技術を身に付け、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。	24
2	3. プログラムと情報システムの開発 (1) 情報システムの開発方法と手順 (2) プロジェクト管理 (3) オブジェクト指向型言語の利用 (4) オブジェクト指向型によるクイズアプリの開発 (5) 情報システムの評価と改善 4. 情報システムの開発演習 (1) Web ページ作成の基礎 (2) スタイルシートの活用 (3) PHP の活用 (4) データベースとの連携 (5) 携帯型情報通信機器用 (6) 手続き型言語の利用	開発する情報システムの規模や内容などに応じて適切な手法を選択することの重要性及び要件定義、外部設計、内部設計など情報システムの開発に関する手順について考察する学習活動を取り入れる。 オブジェクト指向の考え方を踏まえたデータの入出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用方法などについて理解する。オブジェクト指向型言語を利用して基本的なプログラムの作成方法についての技術を身に付け、ビジネスに関する課題を設定したアプリの開発実習について理解し、企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する実習についての基本的な技術を身に付ける。 情報システムの評価の意義と手法及び評価を踏まえた情報システムの改善の流れを理解する。 HTML 言語を用いての Web ページの作成技法について理解する。 CSS による視覚表現の技法について理解する。 HTML に動きを付ける PHP の操作方法を理解する。 データベースの活用方法として PHP と連携したシステムの構築について理解する。 モバイルアプリケーションについて理解する。 手続き型言語の特徴を理解し、情報システムを開発する基礎的な技法を身に付ける。	30
3	5. ハードウェアとソフトウェア (1) データの表現 (2) ハードウェアの機能と動作 (3) ソフトウェアの体系と役割 (4) 情報セキュリティ	数値データの表現方法、コンピュータで使用される補助単位、誤差、論理演算、データ構造、ファイル形式、文字データの表現方法について理解する。 情報システムの構成や性能、障害対策について理解する。 ソフトウェアの体系や、それぞれの役割、目的について理解する。 情報セキュリティの目的やリスク、実現するための技術について理解する。	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、意義や役割について理解している	授業での様子 提出物 定期試験	プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術をしっかり身につけ、意義や役割についてきちんと理解している	プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術のある程度身につけ、意義や役割について理解している	プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけておらず、意義や役割について理解していない
【思考力、判断力、表現力等】 流れ図やトレース表から実行結果を導くことができたり、実行結果を導くために流れ図を作成したりすることができる Eclipse を活用して、プログラムを作成することができる Java を活用した作品制作ができる	授業での様子 提出物 定期試験	プログラミングソフトを積極的に活用でき、基本的なプログラムを作成することができる さらにそのプログラムを応用できる	プログラミングソフトを活用でき、基本的なプログラムを作成することができる	プログラミングソフトを活用できず、基本的なプログラムを作成することができない
【主体的に学習に取り組む態度】 プログラムに関する分野に関心をもち、プログラミングの必要性や利便性について考えることができる	授業での様子 提出物 定期試験	自ら計画に即して確実に実行結果を導くことができる 与えられた問題に進んで取り組むことができ、その内容をさらに応用することができる	アドバイスを受けながら実行結果を導くことができる 与えられた問題に進んで取り組むことができる	アドバイスを受けても実行結果を導くことができない 与えられた問題に取り組む姿勢がない

※具体的な評価方法等

以下の基準により総合的に判断する。

- ① Eclipse を活用し、プログラミング技術が身に付いているか【実技試験】
- ② プログラミングに関する知識を習得しているか【筆記試験】

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	簿記演習（ビジネス選択B）	学年	2	単位	2
教科書(出版社)		新簿記 新訂版（実教出版）					
副教材等(出版社)		全商簿記実務検定模擬試験問題集 2024 年用 2・3 級					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
ビジネスの諸活動を理解し、簿記に関する知識を習得する。昨年度の学習を積み重ね、簿記の検定試験問題等にも取り組む力を養う。	発問などに対して、自らの知識を整理し、考えを構築し、表現する能力を養う。	意欲的に取り組む姿勢を育みながら基礎的な知識を理解し、そこから自らの課題を発見し解決する能力を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容	時数
1	1 簿記の基礎からの復習	・ 仕訳から決算まで、簿記の一連の流れを理解させる。	24
	2 全商簿記検定3級 対策	・ 検定対策問題集を使用し、6月検定受験を目指し問題演習に取り組ませる。	
	3 全商簿記検定2級 対策	・ 3級合格後は2級の内容に取り組ませる。	
2	4 仕訳・帳簿組織 ・ 本支店会計 ・ 英語の問題 ・ 決算	・ 取引の記帳、会計帳簿と帳簿組織、株式会社の記帳を理解させる。 ・ 本支店の取引や財務諸表の合併、支店相互間の取引について理解させる。 ・ 簿記会計用語の問題に取り組ませる。 ・ 決算整理から、精算表・貸借対照表・損益計算書の作成、帳簿決算までの一連の流れを理解する。	30
3	・ 伝票 全商簿記検定2・3級 対策 ・ 計算問題	・ 三伝票制と伝票の作成、集計を理解させる。 ・ 再受験者用の演習を行い、検定試験の内容を理解させる。 ・ 簿記の仕組みとそれに基づく計算を理解させる。	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識・及び技能】 発問などに対して自らの考えを述べられるか。 実社会での処理を意識できるか。	授業への取り組み姿勢 課題等	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が概ね身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についていない。
【思考力・判断力・表現力等】 簿記実務に関する知識を活用し、適切に処理を行うことができる技術を習得しているか。	授業への取り組み姿勢 課題等	簿記をはじめとしたさまざまな知識・技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすことができる。	簿記をはじめとしたさまざまな知識・技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を概ね見いだすことができる。	簿記をはじめとしたさまざまな知識・技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすことができない。
【主体的に学習に取り組む態度】 定期考査および提出物の達成度等 教科書等の準備や授業を受ける態度など。	授業への取り組み姿勢 課題等 定期考査	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を概ね身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度が身についていない。

※具体的な評価方法等

・検定試験の結果は加点項目とする（減点要素とはしない）

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ビジネスデザインⅠ (ビジネス選択Ⅱ)	学年	2	単位	2
教科書(出版社)	なし						
副教材等(出版社)	Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書(技術評論社)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
IllustratorやPhotoshopを活用して、作品を制作する能力を身につける。 作品制作やプレゼンテーションに必要な知識を習得する。	クライアントの要望にどのように応えていけばよいのかを考えて、作品制作を行う能力を身につける。	デザインに関する分野に関心を持ち、積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	Illustratorの基礎練習	・Illustratorの基本操作を学習する ⇒テキストに沿いながら、オブジェクト・テキスト・カラーリング等について学ぶ。 ・ペンツールを使用したイラスト作成の基礎を学ぶ。 ⇒企業のロゴ等を題材に、ペンツールを使用しトレースする。 ・今後の学習に活かす為、手書きでキャラクターデザインまたはロゴデザインを描く。 ⇒描いたデザインを元にペンツール等を使いトレースを行い、デザインとして完成させる。	24
2	Photoshopの基礎練習 課題制作	・Photoshopの基本操作を学習する ⇒画像の加工・合成等について学ぶ。 ・各種選択方法を駆使した加工方法を学ぶ。 ⇒身近な物を題材に、画像の選択・加工・合成等について実践的に学ぶ。 ・広告の目的について理解する。 ・広告計画の立案と実施の流れや広告に関する規制及び広告活動に求められる倫理について理解する。 ・コンテストに応募を行う。コンテストの課題に対して、社会的な要求やクライアントからの要望等を踏まえながら調査研究を行い自らデザインコンセプトを設定する。	30
3	課題制作	・設定したコンセプトに基づき、ポスター等を制作する。 作成した作品に対してさまざまな要素を言語化し、説明できるようにする。	16

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 デザインに関する分野に関心があり、課題に取り組んでいる。	課題 作品	デザインに関する分野に強い関心があり、積極的に課題に取り組んでいる。	デザインに関する分野に関心があり、課題に取り組んでいる。	デザインに関する分野に関心が見られず、課題に取り組む姿勢が不十分である。
【思考力、判断力、表現力等】 完成度の高いものを効率よく作成する手順を考察し、課題及び作品の製作をおこなっている。 クライアントの要望にどのように応えていけばよいのかを考えて、作品およびポートフォリオの制作をおこなっている。	課題 作品 ポートフォリオ	完成度の高いものを効率よく作成する手順を考察することが十分できている。 クライアントの要望にどのように応えていけばよいのかを十分に考え、作品およびポートフォリオの制作をおこなっている。	完成度の高いものを効率よく作成する手順を考察することが概ねできている。 クライアントの要望にどのように応えていけばよいのかを考え、作品およびポートフォリオの制作をおこなっている。	完成度の高いものを効率よく作成する手順を考察することができない。 クライアントの要望に応えることができていない。または、作品およびポートフォリオの制作を怠っている。
【主体的に学習に取り組む態度】 Illustrator や Photoshop を活用して、課題を制作することができる。	課題 作品	Illustrator または、Photoshop を活用して、課題を制作することが十分できている。	Illustrator または、Photoshop を活用して、課題を制作することが概ねできている。	Illustrator または、Photoshop を活用して、課題を制作が不十分である。

※具体的な評価方法等

・提出物・作品・ポートフォリオ（60％）・取り組み状況・出席（40％）等を総合的に判断し評価する。